**調査計画提案書（例）**

〇班

学籍番号　氏名

|  |  |
| --- | --- |
| 調査タイトル | 大学生における減塩意識と栄養成分表示に対する意識の関連 |
| 背景 | 令和元年国民健康・栄養調査の結果によると、20歳以上の成人の食塩摂取量はこの10年間で減少した1)。しかし、その減少量は約0.5 gであり、食塩摂取量の平均値は10.1 gと依然として目標量よりも多く2)、さらなる減塩が必要な状況である。  同調査では、食塩摂取量と食習慣の改善意欲についての関連も検討しており、食塩摂取量が多い者では、食習慣の改善に関心がないだけでなく、食習慣に問題があることに気づいていない者が一定数いることが分かった3)。ふだんの生活で食塩摂取量を把握できないことが、減塩を難しくする理由の一つであると考えられる。  食品に含まれる食塩含有量を知る方法の一つとして、栄養成分表示がある。これは、2020年4月1日から義務化された表示制度である。しかしながら、大学生を対象とした調査では、栄養成分表示を参考にする者は40%程度にとどまり、減塩意識との関連については明らかになっていない4)。  以上から、この調査では大学生を対象に減塩意識を調べるとともに、栄養成分表示に対してどのような意識を持っているかを調べることとした。 |
| 目的 | 大学生における減塩意識と栄養成分表示に対する意識の関連を調べる |
| 対象 | XXXX学科　20XX年度　XXXX実習受講者　XX名 |
| 質問項目 | ・対象者特性  　性別、年齢、居住形態（実家、一人暮らし、寮、その他）  ・減塩に対する意識  　回答形式：単一回答  　質問：あなたは、ふだんの食生活で塩分の摂取量を気にしていますか。該当するものを1つ選んでください。  　回答選択肢：「非常に気にしている」「少し気にしている」「あまり気にしていない」「全く気にしていない」  ・栄養成分表示に対する意識  　回答形式：単一回答  　質問：あなたは、ふだん食品を購入する時に、栄養成分の表示を参考にしていま  すか。該当するものを１つ選んでください。  　回答選択肢：「いつもしている」「時々している」「あまりしない」「いつもしない」 |
| 統計解析 | ・各質問項目について、連続変数は平均値と標準偏差、名義変数は頻度と割合を算出する。  ・減塩に対する意識の回答を「気にしている」「気にしていない」の2群に分ける  ・栄養成分表示に対する意識の回答を「参考にする」「参考にしない」の2群に分ける。  ・「減塩に対する意識」と「栄養成分表示に対する意識」について、2×2のクロス集計とカイ二乗検定を行う。  ・有意水準はp<0.05とする。 |
| 予想する結果 | ・減塩を気にしない者では、栄養成分表示を参考にする者が少ない。 |
| 引用文献 | 1) 令和元年国民健康・栄養調査、結果の概要（p.52）、図29-2年齢調整した、食塩摂取量の平均値の年次推移（20歳以上）（平成21～令和元年）<https://www.mhlw.go.jp/content/000711005.pdf>（アクセス日：2023/03/22）  2) 令和元年国民健康・栄養調査、結果の概要（p.52）、図30食塩摂取量の平均値（20歳以上、性・年齢階級別）<https://www.mhlw.go.jp/content/000711005.pdf>（アクセス日：2023/03/22）  3) 令和元年国民健康・栄養調査、結果の概要（p.35）、図3食塩摂取量の状況別、生活習慣の改善意思（20歳以上、男女別）<https://www.mhlw.go.jp/content/000711005.pdf>（アクセス日：2023/03/22）  4) 西尾素子, 足立己幸: 栄養表示利用行動と食生活および健康との関連に関する研究－男子大学生についての検討－, 栄養学雑誌, 64(5), 2006, pp. 261-271 |